

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月10日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101540		
法人名	有限会社 アンビション		
事業所名	グループホーム あすなる	ユニット名	1号棟
所在地	〒311-1121 茨城県水戸市島田町3403-1		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果 市町村受理日	平成28年12月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870101540-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870101540-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年1月21日	評価機関 決済日	平成28年6月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様、ご家族様にとってスタッフがかぞくのような存在になれるような支援を心がけております。馴染みのケアを実践するためにスタッフは約3分の2以上が5年以上アンビションで勤務しているスタッフを配置しております。馴染みのスタッフが支援することによって、ご利用者、ご家族様にも安心していただけるように努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

代表者は利用者に安全な食事が提供できるよう米は地元から購入し、野菜や肉、魚、海藻類なども国産を使用するよう職員に指示している。

管理者は事業所で開催する納涼祭やクリスマス会に地域住民を招待したり、町内の運動会に参加するなど、利用者が今までの生活と同じように地域の一員として過ごせるよう支援している。

職員は毎日の外出支援のほか、黄門祭りや遠方の神峰公園などに出かけたり、教え子の同窓会や身内の冠婚葬祭に出席できるよう支援し、利用者の馴染みの人や場所との関係が継続できるように努めている。

年2回の総合避難訓練のほかに事業所独自の訓練を年3回実施し、避難場所の中学校まで実際に行ったり、夜間訓練を想定ではなく実際に夜間に行うなど、防災対策は万全を期している。

職員が丸となって、利用者や家族等の希望するターミナルケアを協力医療機関と連携を図って実践しており、現在までに看取り介護の実績が20例以上のある。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「島田の人情と自然に囲まれ、暖かい陽があたり、家庭的な時間が流れ、思いやりのある介護を提供します。」との事業理念を作っている。スタッフ一人一人が理念を共有しサービス提供に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を開設時に管理者と職員で話し合って作成し、職員の出勤時に確認できるよう玄関に掲示するとともに、管理者と職員は日々の業務の中で理念を確認し合っ共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町内会の三役や民生委員さんにも参加していただき情報交換に努めている。運動会やクリーン作戦などの町内の行事には積極的に参加している。また事業所の行事にも地域の方をお誘いしている。	事業所は町内会に加入しており、地域のクリーン作戦や敬老会に参加したり、近隣の住民が野菜や果物をお裾分けしてくれるなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 小学校の運動会では、参加できる競技には積極的に参加するほか、事業所主催の納涼祭やクリスマス会に地域住民を招待し、利用者が交流できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症の方への理解を深めていただけるような議題を設定するようにしている。介護や認知症に関する相談窓口を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、民生委員、市役所、近隣施設、地域包括支援センター、家族など様々な方にご参加いただいている。 2ヶ月に一度2時間という限られた時間の中で事業所の取り組みを紹介したり、タイムリーな議題で意見交換し、サービス向上に繋がるように努めている。	運営推進会議は市職員や地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、家族会の代表等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 事業所からは利用者の様子や運営状況を報告しているほか、年2回開催する家族会に合わせた運営推進会議では、20名位の家族等が出席し、申請書類についての質問や要望に対して市職員が説明をするなど、活発な会議となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課には入居状況を毎月報告するとともに運営推進会議以外でも必要に応じて助言をいただくようにしている。また、生活保護の利用者の受け入れもしている為、生活福祉課ケースワーカーとも密に連絡をとり情報交換に努めている。	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際や要介護更新申請などで市担当者を訪問し、運営状況や事業所の空き状況を報告している。 市担当者からは介護保険制度の改正や感染症予防対策の指導を受けるほか、生活保護受給者の件では、生活福祉課のケースワーカーと情報交換をするなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し身体拘束をしないケアを実践している。また、日中は施錠せずに、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援するようにしている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、年1回内部研修を実施して、職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 現在家族等から同意書を得て、安全ベルトを着用している利用者があり、経過観察記録に記載していたが、平成27年7月以降の記録が無い。 玄関は防犯上夜間のみ施錠し、昼間は利用者が自由に出入りできるよう見守りで支援したり、職員が付き添って外出や買い物に出かけている。	やむを得ず身体拘束を行う場合は、身体拘束の解除に向けた取組みを「経過観察記録」や「再検討記録」に記載し、定期的に検討する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成して虐待防止に努めている。施設内での研修を行い、虐待防止に生かしている。	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を受けているご利用者もいるので、月に一度担当の方と情報交換し有効に活用できるように努めている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正など今まで変化がある際にはご家族様への十分な説明はもちろんのこと、ターミナルケアなどを行う際には別紙の契約書を用意するようにしている。	/		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など日常的に意見や要望を聞くようにしている。また、年に2回家族会を行いご家族様同士が意見交換できる機会を設けている。			重要事項説明書に事業所の苦情相談受付窓口と、外部苦情申し立て機関を明記している。 管理者と職員は、利用者からは日々の会話の中から、家族等からは来訪した際に声をかけをして意見や要望を聴くよう努め、年2回開催する家族会を事業所の行事に合わせて行い、多数の家族等から意見や要望を聴く機会を設けるほか、同時にアンケートも実施して意見等を汲みあげるよう工夫している。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月にミーティングを行い意見交換する場面を設けている。また、年2回スタッフは自己評価を行い、その際に管理者や取締役と個別面談する時間をつくっている。			管理者は月1回のミーティング時や日常の業務の中で職員とコミュニケーションを図り、何でも言い合える関係づくりに努めるとともに、職員は年2回の代表者との面談の際にも意見や提案をする機会がある。 利用者が快適に安全に過ごせるよう、外出する際の送迎車の乗降に踏み台の利用や車いす用のクッションのほか、浴槽を新しくする際に、入浴介助がし易いように、ベンチ式のいすを付け替えるなど、職員から出た意見や提案を運営に反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のスタッフの自己評価を元に勤務状況などの把握に努めており、その際に行う個別面談にてスタッフ一人一人の意見を職場に反映できるようにしている。			/

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や、外部の研修を活用するとともに、福祉専門誌や新聞などスタッフがいつでも閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターの方を中心に常澄地区の交流会やグループホームの交流会を行っている。お互いの運営推進会議などにも参加し意見交換する場所を作るようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ケアマネージャー、ソーシャルワーカー等からの情報をもとに、ご利用者の生活歴の把握に努め、要望をケアに反映できるような取り組みをしている。また入所前に面会しておくことで、知っているスタッフが初日から関わるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に話し合う場を設けるようにし、事前に希望や不安に思っていることを確認するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族様はもちろんケアマネージャーやソーシャルワーカーなどからも広く意見を聞くようにして他のサービスを含めた、必要な支援が行えるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相互関係を大切にし、家族のような存在になれるようなケアになるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様にとってより良い生活が提供できるように、事業所だけでなく、ご家族様からも意見を聞きながら共に支援するように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけの病院への受診を支援するドクター、看護師、馴染みの患者さんとも会うことができる。外出支援の際も、ご利用者様に馴染みの場所があれば積極的に取り入れるようにしている。	職員は利用者の親戚や友人等の来訪時には、ゆっくり話せるようお茶を出したり、希望の場所に案内して継続的な訪問になるよう配慮している。 職員は利用者の馴染みの店での買い物や美容院、神社等に同行するとともに、職員の運転で毎日元の住まいに出かけ、帰りに散歩をしたり、同窓会に招待された時には出席できるよう支援するなど、利用者が馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格を配慮し、必要に応じてスタッフが間に入って利用者同士が関わりを持てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても人としての関わりを大切にし、病院にお見舞いに行ったり、永眠されてしまった時にはお葬式に参列させていただいたりしている。また、退所されたご利用者様のご家族であっても運営推進会議に参加させていただいたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様やご家族からの話を聞き、希望や意向の把握に努めている。また、家族会時に個別相談の時間を設けており、ご利用者様、ご家族様から話を聞きやすい場面を作るように努めている。	管理者と職員は利用者に寄り添い、日常の会話の中から、一人ひとりの思いや希望を聴くとともに、仕草やつぶやき等から意向の把握に努めている。 意志の疎通が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話しを聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、職員全員で話し合って利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご利用者様、ご家族様、ケアマネージャー等から把握するように努めケアに生かせるようにする。	/	
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人生活記録に一日の過ごし方、バイタル等の記録を残しておき、それをもとにケアプランを作成するようにしている。ケアプランの内容ができていないか評価し、現状の把握に努めている。	/	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	これまでの生活の継続ができるようにご利用者様、ご家族様から意見を聞くようにしている。計画作成者を中心に、スタッフ全員で意見交換し、必要に応じて医療機関からも意見を聞き作成するようにしている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を聴き、必要に応じて医療関係者の意見も取り入れ、計画作成担当者を中心に全職員で意見交換をして作成している。 毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎にアセスメントシートを作成して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。 介護計画は家族等が来訪した際に説明して、来訪できない家族等には自宅に訪問して説明している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人生活記録に記録を取り、必要に応じて申し送りノートに記入することで職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様からお葬式の付き添いや馴染みの方に会いに行きたい等の要望があればそれを実現するためにどうすれば良いかを話し合うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園やご近所様のそば打ち等のボランティアを活用することによって地域資源を活用し楽しみのある生活の提供に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、ご利用者様、ご家族様からの希望を最優先し、なるべく今までかかっていた主治医を変更することなく適切な医療を受けられる支援をするように努めている。	今までのかかりつけ医への受診や協力医療機関への受診など、利用者や家族等が希望する医療機関への受診を支援しており、職員の付き添いを基本としているが、希望があれば家族等が同行する場合もある。 受診結果は月1回のお便りや、変化があった場合は電話で家族等に報告している。 2週間に1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援し、必要に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師が健康管理や必要な医療行為を行い、必要に応じて主治医に報告し適切な受診や看護を受けられる様に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できる様にグループホームに戻った場合どの様な支援が必要になるのかを主治医の先生と話し合うようにしている。また退院後の生活についてもご利用者様、ご家族様、主治医の先生と密に情報交換を行うようにしている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終期末ケアに関する指針を作成しており、それを基にご利用者様、ご家族様、主治医の先生と話し合いを行うようにしている。方針が決定したらそれに向けて医療関係と密に情報交換を行い、ご利用者様一人一人にあ合ったターミナルケアを実践できる様に努めている。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して書面で同意を得ている。 管理者は看取りに関する職員の内部研修を実施し、協力医療機関や職員、家族等と何度も話し合いながら、利用者と家族等の希望する看取り介護が実践できるよう取り組んでおり、現在までに看取りの経験が20例以上ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、それを基に研修を行い急変時や事故発生時の対応に備えている。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に訓練計画を作成している。運営推進会議等の機会を活用し地域の方に避難訓練に参加していただいたりもしている。また、食料の備蓄に関しても一覧表を作成して管理するように努めている。	年2回消防署立ち合いのもと、総合避難訓練を実施するほか、事業所独自の避難訓練も年3回実施し、訓練後に課題を話し合っって記録に残し、次回の訓練に活かしている。 実際に災害時の避難場所である中学校まで行って時間を確認したり、夜間の避難訓練も実施している。 運営推進会議開催日に避難訓練を行い、近隣住民の参加を得て災害時の協力関係を築くよう工夫している。 災害に備えて飲料水や米、乾麺、魚の缶詰、チョコレート、ソーセージなどを約3日分、一覧表を作成して備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	病院等、第三者への情報提供を行う際にはご家族様の同意を得るようにしている。従業員一人一人と守秘義務の契約書を交わしており、守秘義務の徹底に努めている。プライバシーに関わる書類はスタッフ以外が手にできない場所に保管しPマークを貼って持ち出しを厳禁にしている。	職員は年1回のプライバシーに関する内部研修において、正しい言葉かけや対応を共有し、利用前の生活歴を把握するとともに、一人ひとりの人格を尊重しながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は、本部事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や外出の場所等、ご利用者様の希望に合わせて提供するように努めている。また、買い物等の個別の外出にも希望に合わせて対応するように努めている。日々の生活の中も一人一人のやりたいことを確認しながらケアさせていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが何かをするかよりも、ご利用者様が何をしたいかを最優先に考えるようにしている。ご利用者さまの希望に合わせてスタッフのシフトを変更したりと柔軟な対応ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの床屋さんや美容室などがあるご利用者様にはそこまでの外出を支援するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けがやりたいご利用者様には積極的に行っていただくようにしている。食材は地元のお米や国産の野菜、お肉、お魚を使用するようにしており安全には注意を払っている。	献立は管理栄養士が作成し、食材は代表者の「安全な食事を利用者に提供したい」との思いで、地元の米や野菜のほか、肉や魚なども国産を食材に取り入れている。 おせちを始め雛祭りなどの行事食は、利用者の希望する献立としたり、花見などの外出の際は、手作り弁当を持参するなど、食事が楽しめるように支援している。 職員は利用者の咀嚼力に応じて刻み食を提供するなど、一人ひとりに配慮した食事を提供し、利用者と同じ食事を摂っている。 おやつは毎日職員と利用者で手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量の把握をできるよう、一人一人記録に残すようにしている。食事の時間に関してもその方に合った提供時間を心掛けている。	/	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方への声かけ、できない方への支援を行い口腔内を清潔に保つことが出来るように努めている。また協力歯科医医院が二つあり、必要に応じて受診や往診していただくようにしている。	/	
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様一人一人に排泄表を作成しており排泄パターンの把握に努めている。失敗やおむつの使用を減らすことが出来るように、排泄の時間は決めずにその都度対応するように努めている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知して声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 夜間でもトイレ誘導を実施しておむつに頼らず、日中はリハビリパンツやパッドの使用のみで排泄ができるよう、自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便の有無を確認するよう にしており、運動や水分補給を促すよ うにしている。また便秘気味のご利用 者様には主治医への報告や受診の対応 をするようにしている。	/		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミング に合わせて入浴を楽しめるよう に、職員の都合で曜日や時間帯を 決めてしまわずに、個々に応じた 入浴の支援をしている	入浴の頻度や時間はご利用者様一人一 人の希望に沿って行うようにしてい る。それに合わせてスタッフのシフト も変更するようにしている。檜のお風 呂をしようしており、ご利用者様から も好評である。			週3回の入浴を基本としているが、利用者 の希望でいつでも入浴ができるように 支援している。 檜の浴槽に菖蒲湯や柚子湯、みかんの 皮を乾燥させて浴槽に入れるなど、 利用者が家庭的な雰囲気や季節感 を感じられるよう支援している。 入浴を拒む利用者には声かけを工夫 したり、時間を変えて入浴を促す など、無理強いせず対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその 時々の状況に応じて、休息した り、安心して気持ちよく眠れるよ う支援している	ご利用者様の今までの生活のリズムを 最優先に考え、好きな時間にやすむ ことが出来るように努めている。なか なか休めないご利用者様にはスタッ フが声をかけたり、必要に応じて主 治医にも相談させていただくように している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につい て理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の管理はスタッフが行うようにし ており、誤薬や飲み忘れがないよう に努めている。内服薬の内容の変化が あった際は、効果や副作用について も理解できるように申し送りノート などを活用してスタッフ間の情報の 共有に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している	ご利用者様一人一人の生活歴を把握 し、その方に合った余暇活動を取り 入れたり、役割を持って生活できる 様に努めている。喫煙、飲酒などの 希望がある際は、ご家族様や主治 医等と相談して決めるようにしてい る。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の日常的な外出はご利用者様の希望に合わせて行うように努めている。冠婚葬祭などで遠方の外出を希望される際はご家族様や主治医と相談し必要に応じた支援が提供できるように努めている。	毎日事業所周辺を散歩したり、近くのコンビニエンスストアに出かけるなど、職員は日常的に外出を支援している。 外出行事としては、花見や偕楽園、黄門祭り、県庁等市内のほか、神峰公園などに職員と利用者全員で車に分乗して出かけるなど、職員は利用者の気分転換が図れるよう支援している。 同窓会や冠婚葬祭など、遠方の外出でも家族等や医師と相談をして職員が付き添い、参加できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができないご利用者様でも、お金を持っていたい方にはいくらか預かっていただいている。スタッフで管理している方には希望時にすぐ渡せるようにしている。	/	
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご利用者様の好きな時間に使えるようにしている。お手紙もご希望があれば書いていただいて出すまでを支援するようにしている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム内の温度、湿度は一日四回測定し、心地よい空間作りに努めている。トイレは四ヶ所ありすべて車椅子の方でもご利用頂ける広さがある。台所はホールから見える場所があり、調理しているときの音であったり匂いを感じることが出来る。お風呂は檜のお風呂を使用しており、木でできた優しい作りになっている。	居間兼食堂は広く、天窓には直射日光を調整するためにすだれを設置しており、1日4回測定して温度や湿度を管理している。 トイレや浴室は清潔に保たれ、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。 4ヶ所あるトイレはいずれも車いす対応で、利用者が安全に使用することが出来るよう、場所によっては手摺の位置を変えて、左右どちらの麻痺にも対応できるようにしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子などを用意しており一人になれたり、仲のいい方同士でお話の場になっている。外にはウッドデッキがあり天気の良い日には日光浴されるご利用者様もいらっしゃる。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台、押入れ、カーテンが備え付けられており、在宅で使っていた馴染みの深い物を持ち込んで頂けるようにしている。テレビのアンテナも各自室に備え付けられてありテレビを持ち込まれてご覧になることもできる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前にはプレートを設置したり、トイレがわかるように目印をつけたりし、ご利用者が自分でもわかるように支援している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあすなろ

作成日 平成28年12月4日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	安全ベルト着用者の経過観察が毎月行われていなかった	身体拘束をしないようにする	やむを得ず身体拘束を行う場合は、毎月経過観察記録を付け、身体拘束しないように定期的に検討する	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。